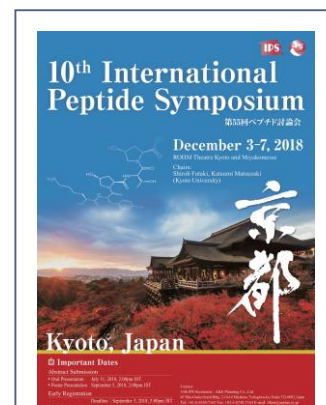


◆ The 10th International Peptide Symposium/the 55th Japanese Peptide Symposium 報告

2018年12月3日(月)～7日(金)の会期で、ロームシアター京都・京都市勧業館「みやこめっせ」を会場として、The 10th International Peptide Symposium (IPS)/The 55th Japanese Peptide Symposium (JPS) (第10回国際ペプチドシンポジウム/第55回ペプチド討論会)開催が開催されました(主催:日本ペプチド学会;共催:新学術領域研究「中分子戦略」ほか;組織委員長:二木史朗、松崎勝巳;URL:<http://aeplan.co.jp/10thips/>)。IPSは欧州、北米、アジア・オセアニアの持ち回りで毎年開催され、直近では第8回がドイツ・ライプチヒ、第9回がカナダ・ウィスラーで開催されています。日本でのIPSの開催は第1回(1997年、35ヶ国、550名)および第5回(2010年、33ヶ国、750名)に続き、今回が3度目です(開催地はいずれも京都)。



シンポジウムポスター

会期中はやや天候が不順でしたが、例年より暖かく、また、名残の紅葉も楽しむことが出来ました。参加者数は約800名(うち学生約300名)で、参加国・地域は日本を含め31、海外からの参加者も約300名に達し、国際シンポジウムにふさわしい盛会となりました。演題数は、Plenary Lecture 2題(The Scripps Research Institute, Dale L. Boger 教授・University of California San Francisco, William DeGrado 教授)、受賞講演3題、口頭発表112題、ポスター発表400題でした。

本シンポジウムでは、①最新の研究成果発表・討論に加え、②人脈・連携の強化、③若手の研究奨励3つを目的に行いました。この達成のため、国際プログラム委員会による演者の選定、若手招聘のためのトラベルアワード、口頭ならびにポスターの優秀発表者に対する表彰(Peptide Science誌、ならびにAngewandte Chemie/ChemBioChem誌の協賛を得ての優秀発表賞を含む)、若手の交流をより深化させるYoung Scientists Mixer(すき焼きパーティー:ただし有料・100名限定)などを企画しました。また、～自然に息づく万能素材「アミノ酸・ペプチド」～と題した市民フォーラム(参加者90名)も期間中に開催しました。



会場風景



Boger 教授



DeGrado 教授

本シンポジウムの開催にあたり、本新学術領域研究からご支援をいただくとともに、多数の関連の先生方、学生の方にご参加・ご発表をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(文責 二木史朗)

◆ 新学術領域「中分子戦略」第6回若手シンポジウム

平成31年3月7日(木)～8日(金)に、第6回若手シンポジウムが西鉄イン福岡およびアクロス福岡(福岡)にて、大石徹(九大院理・教授)を世話人として開催された。全国各地から、教員および大学院生22名の参加があった。

領域代表の深瀬浩一教授(阪大院理)のご挨拶を皮切りにシンポジウムが開始された。若手研究者14名による口頭発表(講演15分、質疑5分)が行われた。反応開発から機能性分子の合成、全合成、生物活性評価など非常に広範囲にわたる講演が行われた。分野横断的な本領域の特徴が表れており、新しい学術領域の発展につながる有意義なシンポジウムであった。講演時間とは別に質疑時間を設けたが、予想以上に非常に活発な議論がなされたため、予定時間を超過する程であった。将来を担う若手研究者のレベルの高さと意気込みが伝わる非常に良いシンポジウムとなった。また、懇親会においては、講演会では時間が足りなかった議論の続きを行い、さらに活発な意見交換を行うとともに、本領域の将来について熱い議論がなされた。最後に行われた特別講演では、「環境調和反応の集積化を目指して」という演題で、大嶋孝志先生(九大院薬)にご講演頂いた。副生成物を出



参加者全員での集合写真

さない環境調和型の触媒反応や化学選択的な反応の触媒反応の開発、およびフロー合成への展開などについて広範囲にわたるご講演を頂いた。次回の若手シンポジウムの告知が行われた後、閉会となった。

講演者一覧（敬称略）

特別講演 大嶋孝志（九大院薬）「環境調和反応の集積化を目指して」

口頭発表 岡野健太郎（神戸大）、瀧川紘（京都大）、森本浩之（九州大）、木村泰明（名古屋大）、西本能弘（大阪大）、下山敦史（大阪大）、真鍋良幸（大阪大）、井川和宣（九州大）、岩田隆幸（九州大）、森崎一宏（京都大）、近藤健（大阪大）、寺正行（サントリー生有研）、松本晃（京都大）、若宮佑真（九州大）、木室佑亮（九州大）

（文責 大石 徹）

◆ 日本化学会第99春季年会 中長期テーマシンポジウム 「生命科学における分子化学のプレゼンス」

平成31年3月16日午前に表記シンポジウムが開催され、本領域から深瀬教授と土井教授が招待講演を行いました。深瀬教授は、「中分子戦略と複合化による生物機能中分子の創製」というタイトルで、まず低分子と中分子との違いを概説し、本領域が挙げた成果を計画研究課題中心に紹介しました。例えば、複数のターゲットに同時に作用する多重薬理作用を利用するために、複数の活性分子を連結する複合化が有効である



ことがあります。自己アジュバント化がんワクチンの創製など、複数の成功例を解説しました。続いて登壇した土井教授は、「中分子環状ペプチドの合成、生物活性、三次元構造」というタイトルで Apratoxin A 誘導体の研究を報告しました。現在ヘリックスペプチドの配座固定技術としてステーブル化が利用されていますが、環状ペプチド天然物の構造簡略化においてもステーブル化の概念が適用できることを示すものです。同教授が有

する高度のペプチド配座解析技術が利用されました。年会初日の朝という条件にも関わらず、会場には100名もの聴衆が集まり大変盛況のうちにシンポジウムは閉会しました。

（文責 有本博一）

◆ 業績

・受賞

長野 倫 (M1) (A03 計画班 松原 誠二郎グループ)

第38回有機合成若手セミナー 優秀研究発表賞 (ポスター賞) (2018.8.7)

松本 晃 (D3) (A03 計画班 松原 誠二郎グループ)

第48回複素環化学討論会 Heterocycles Award (学生講演賞) (2018.9.3)

高橋俊文 (D1) (A03 計画班 松原 誠二郎グループ)

第65回有機金属化学討論会にてポスター賞 (2018.9.21)

浅野圭佑 (A03 計画班 松原 誠二郎グループ)

日本化学会 第68回進歩賞 (2019.3.18)

・新聞、雑誌

浅野圭佑 (A03 計画班 松原 誠二郎グループ)

Chem. Asian J. 2019, 14(1), 2. Selected as Cover Feature.

Synfacts 誌 (Synfacts 2018, 14, 1198)

trans-Cyclooctenes as Halolactonization Catalysts, Angew. Chem., Int. Ed. 2018, 57, 13863.

山田英俊 (A01 班 研究代表者)

Science First Release

Conformationally supple glucose monomers enable synthesis of the smallest cyclodextrins.

◆ 今後の予定

【令和元年度】

・主催

<第8回成果報告会>

日時：2019年5月31日、6月1日

場所：京都大学桂キャンパス船井哲良記念講堂

世話人：松原誠二郎



<第7回中分子戦略若手シンポジウム>

日時：2019年7月20、21日

場所：北海道、定山溪ビューホテル

世話人：谷野圭持

<第9回成果報告会>

日時：2020年1月24、25日

場所：大阪大学、豊中キャンパス南部陽一郎ホール

世話人：深瀬浩一

・共催

<The 18th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA-18)>

日時：2019年7月21-26日

場所：札幌コンベンションセンター

世話人：鈴木孝紀

<27th International Society of Heterocyclic Chemistry>

日時：2019年9月1—2日

会場：ロームシアター京都/みやこめっせ

世話人：赤井周司、北泰行

<第36回有機合成化学セミナー>

日時：2019年9月17—19日

会場：ぎふ長良川温泉『ホテルパーク』

世話人：村井利昭

<第9回CSJ化学フェスタ2019>

日時：2019年10月15—17日

会場：タワーホール船堀

世話人：田中克典

<ISMMS-5, ISONIS-12, ICAMS-2>

日時：2019年11月21, 22, 23日

会場：Awaji Yumebutai International Conference Center (予定)

世話人：垣内喜代三



< Gratama Workshop >

日時：2020年3月

場所：長崎

世話人：深瀬浩一

【令和2年度】

・共催

< Pacificchem 2020 >

場所：Hawaii

・ Regulation of protein-protein & protein-biomolecule interactions using Middle Sized Molecular Strategy

Organizers: Koichi Fukase, Takayuki Doi, Masahisa Nakada, Kevin Burgess (Texas A & M Univ, USA), Xiaoguang Lei (Peking Univ, China), Heeyoon Lee (KAIST, Korea)

・ Flow Synthesis using Flow and Microreactor Systems

Organizers: Koichi Fukase, Aaron Beeler (Boston University), Shawn Collins (University of Montreal)

文部科学省科学研究費補助金「新学術領域研究」
反応集積化が導く中分子戦略 領域事務局

大阪大学大学院理学研究科・理学部 天然物有機化学研究室内

〒560-0043 豊中市待兼山1番1号

TEL: 06-6850-5388 | FAX: 06-6850-5419 | Email: middle-molecule@chem.sci.osaka-u.ac.jp

WEB: <http://www.middle-molecule.jp>

